

環境総合計画部会における意見集約表

参考 2

基本となる視点

部会委員意見	府民意見等
<p>(新エネルギー都市構想) 「将来ビジョン・大阪」にある新エネルギー都市構想のようなものは基本となる視点として考慮すべき。</p> <p>公害を規制していくという発想よりも、むしろ省資源・省エネルギーの街を積極的につくっていくという態度の方が今は大事になりつつある。</p> <p>(広域連携) 関西州のような大きな地域、区域について、広域的な環境施策も視点として持たなければならない。</p> <p>未来の社会は産業構造として、都市構造として大阪府はこういうふうになっているんだ、近畿圏あるいは関西圏、また広くは東アジア地域で大阪府は環境分野でこういう役割を果たすんだということまで含めた総合計画を目指せればと考えている。</p> <p>府内で全てを完結しようとするのではなく、そのような地域循環圏、関西圏のつながりを踏まえた上で大阪が為すべきことは何か(牽引役か、フォローに回るか)を考える、という視点が重要。</p> <p>(住民主体) 住民「参加」というよりも、住民は「主体」にならないと効果的に進まないの、住民主体に取り組んでいく視点で計画はつくるべき。専門家や、行政は指導するだけではなくて、住民が主体となってやれるための支援をどうするのかを検討。</p> <p>(府民等の参加) 環境に関する取り組みは、府民生活や事業者の仕事に大きく関わる問題であるので、積極的に参加してもらえ計画作りが重要。</p> <p>(領域横断的検討) 温暖化対策の場合には特に、従来の環境施策の延長線上の考え方を抜け出して、産業のあり方、交通のあり方など領域横断的な視野が必要になってくる。</p> <p>(独自の打ち出し) 「低炭素」は重要であり、国全体そして府の計画の全てのベースに流れているものであると思うが、府の環境総合計画の打ち出しとしては、何か特徴的なものを前面に押し出せないかと考えている。</p>	<p>将来に向けた都市全体の配置計画をはじめ、都市構造を練り直し、自然の恩恵をもっと受けやすい街づくりに向けての方向性を示すべき。</p>

計画の枠組み

1 計画の位置づけ

部会委員意見	府民意見等
<p>(環境基本条例等との関係) 環境基本条例や「将来ビジョン・大阪」などと整合を図った計画ということに位置づける。また「将来ビジョン・大阪」を実現するための具体化を図っていく。</p> <p>(各種行政計画との関係) 環境総合計画の策定に伴って、必要に応じて各種の行政計画を定めていく。</p> <p>(国の環境基本計画との関係) 国の環境基本計画を頭に入れる必要はあるが、国との関係を書かなければならないわけではない。</p>	

2 計画の期間

部会委員意見	府民意見等
<p>社会が大きく変わっているであろう将来の、例えば2050年頃のイメージは作っておくべきと考える。しかし、具体的な実行計画を考えるにはちょっと遠いと思うので、総合計画の目標期間としては10年スパンが妥当ではないか。その中で、3年の重点プロジェクトを回していくのがよいのでは。</p> <p>大阪は2050年にこういう姿を目指すんですよということを示すことと併せて、その目標に向かって短期にどういうことを積み上げていくんだということを、両サイドから計画の中に盛り込むべき。</p> <p>10年で計画を回していくという基本構造はいいが、5年毎に中間段階で見直しをかけていくべき。</p> <p>基準年や長期、中期の目標年次は、世界の流れに合わせたほうが府民にはわかりやすい。</p> <p>環境問題によってターゲットの期間は変わってくる。大気や水や廃棄物などの環境問題は、温暖化より短期スパンになる。</p> <p>既存の都市のあり方とかが変わらない短期とそれが変わり得る、より長期に大まかに分けて考えるべき。</p>	<p>(化学物質に関する計画目標年次) 世界の流れに合わせ、化学物質関連の側面では2020年を目標に計画をつくってほしい。</p>

3 計画の対象

部会委員意見	府民意見等
<p>(対象地域) 経済活動は関西全域を視野に行なわれており、関西の中の大阪という視点を入れたほうがよい。</p> <p>生物に県境はなく、近隣の府県と共同してやっていかなければならない。</p> <p>(対象範囲) 従来型の公害行政の延長上の環境だけの範囲ではだめで、流域横断的に社会構造を変えていくとなると、都市計画など連関する計画同士の重なり合いを整理していくべき。</p> <p>現計画の対象範囲にある「歴史的文化的環境の形成」は今後とも重要。例えば、「もったいない」という慣習・文化など、次の世代に大切に伝えられる「生活文化」も個々に含まれると考える。</p>	

4 計画の構成

部会委員意見	府民意見等
<p>(バックキャスト手法) 長期のスケジュールを描いておいて、短期の目標を設定していく。2050年あたりを見ながら、大阪の産業構造とか都市構造をどういふふうに変えていくのか考えながら、10年先とか20年先の短期目標を設定していく形がある。</p> <p>社会が大きく変わっているであろう将来の、例えば2050年頃のイメージは作っておくべきと考える。しかし、具体的な実行計画を考えるにはちょっと遠いと思うので、総合計画の目標期間としては10年スパンが妥当ではないか。その中で、3年の重点プロジェクトを回していくのがよいのでは。</p> <p>(長期を見据えた施策展開) 長期のスケジュール・シナリオを描いておいて、それに合意を取り付けていくという手法がある。</p> <p>こう推移するだろうという予測をした上で、そこからどれだけ下がるかということを考えていかないといけない。それが決まるとこれまでの施策で目標を達成できるのか、達成できないとすれば追加的にもう少し強力な施策を入れるべきかどうかという議論になる。</p> <p>(大阪独自のプロジェクトの検討) 例えば東京都は排出量取引とか、神奈川県は環境税など検討している。大阪府も、将来の都市戦略と合致する形で、何か特徴的なプロジェクトなり政策手段なり、検討いただきたい。</p>	

目標

- 1 長期的な目標
- 2 中期的・短期的目標

部会委員意見	府民意見等
<p>社会が大きく変わっているであろう将来の、例えば2050年頃のイメージは作っておくべきと考える。しかし、具体的な実行計画を考えるにはちょっと遠いと思うので、総合計画の目標期間としては10年スパンが妥当ではないか。その中で、3年の重点プロジェクトを回していくのがよいのでは。</p> <p>既存の都市のあり方とかが変わらない短期とそれが変わり得る、より長期に大まかに分けて考えるべき。</p> <p>大阪は2050年にこういう姿を目指すんですよということを示すことと併せて、その目標に向かって短期にどういうことを積み上げていくんだということを、両サイドから計画の中に盛り込むべき。</p> <p>環境問題によってターゲットの期間は変わってくる。大気や水や廃棄物などの環境問題は、温暖化より短期スパンになる。</p> <p>温暖化対策の場合については特に、従来の環境施策の延長線上の考え方を抜け出して、産業のあり方、交通のあり方など領域横断的な視野が必要になってくる。</p> <p>環境、経済、社会が総合的な意味で持続可能な社会であることが望ましいという議論があり、自然を現在世代から将来世代にいい状態で引き渡していく責任が我々にあるという考え方があり、持続可能性というキーワードを取り込んでいただきたい。</p> <p>都市とか地球に住む責任を果たすことを実現するまちとか、府民の健康を守るまちとか、子孫に良好な環境を残すとか、そういうコンセプトがあった方がよい。</p> <p>目標設定のあり方</p> <p>(厳格な評価) 達成目標はあるが行動目標はこれまで書かれていない。数値目標についても検討し、PDCAサイクルに基づくもっと厳格な評価を自らやる必要がある。</p> <p>(成果指標) 府民活動の実績について参加の人数や箇所も必要だが、成果指標を精査して、ほんとうに環境のための目的に沿ったものか再度点検する必要がある。指標の適正な設定の検討というのも必要。</p> <p>数値目標をできる限り設定し、成果主義、アウトプット重視にすべき。</p> <p>(府民にわかりやすい指標) 市民とか府民の立場からすると、目に見える形で少しずつ達成感のあるようなことを入れていかないといいない。達成度がチェックできるような、あるいはそれが報告されたり、実感としてわかるような仕組みがあるとよい。</p> <p>目標数があまり多いとチェックが効かなくなる。本当に環境にとって良いもの、府民にわかりやすいもの、頑張れば成果が出そうなものに絞りこんで、みんなが参加できるような目標を設定し、その目標の達成に向けてみんなを呼び込んで、関心を高めることが進行管理につながるのではないかな。</p> <p>(各主体毎の指標) コントロールできそうな項目を指標値として、「府民がガンバル項目」、「行政がガンバル項目」、「事業者がガンバル項目」などとして、それぞれ3つずつ設定して公表するなど、計画をわかりやすくアピールし、府民を呼び込む手法を検討してはどうか。</p> <p>(子どもに関する指標) 「子どもがガンバル項目」として「生き物調査(生物多様性)」や「給食の食べ残し削減(循環)」を盛り込むなど、計画を身近なものとしてアピールできるツールも含めてはどうか。将来の社会の担い手は、今の子どもなので。</p>	<p>長期目標は「環境革命の中で重要な役割を果たす大阪」、「気候変動に対応し安心して住める潤いある大阪」、「生命が尊重され利他心あふれる環境都市大阪」がよいのではないかな。</p> <p>人間の健康・生活を含めた総合的な計画、府民が健康で文化的な生活を送られる総合的な計画となることを要望する。</p>

<p>(身近なものを地球環境につなげる) 土と緑と水とかの観点から地球環境につながるような道筋みたいなものでシナリオができて、達成度が評価できるような形で何かあわせないか。</p> <p>(行動目標へのブレークダウン) 日本、大阪レベルの大きな目標から、個人の家での活動目標のレベルにブレークダウンした数値を整合性を持ってつくって、それをチェックできるようにすることが大事。</p> <p>低炭素であれば、大阪府のCO2排出削減目標を決めて、それを交通とか民生とか領域ごとにブレークダウンした目標を決めていく必要がある。</p>	
--	--

施策展開のあり方

【全般に関わる意見】

部会委員意見	府民意見等
<p>環境、経済、社会が総合的な意味で持続可能な社会であることが望ましいという議論があり、自然を現在世代から将来世代にいい状態で引き渡していく責任が我々にあるという考え方があり、持続可能性というキーワードを取り込んでいただきたい。</p> <p>4つの大項目は基本的には同じだが、微修正は必要。自然との共生でと自然だと何でもいいのかということになり、在来の生態系とか生物多様性という話になる。</p> <p>従来のものをさらに充実させるとすると、健康は安心ということになるのかと思う。</p> <p>継承みたいな言葉を入れると、世代間倫理の話は入る。</p> <p>参加というと、すごく消極的なイメージでとらえてしまう。行動という言葉とセットでないといけない。また、社会の仕組みを変える、暮らしを変える、それ以前に人が変わらなければならないと思うので、もう少し上に入れていただいた方がよい。</p> <p>参加よりもっと主体的な意味合いが含まれている行動。それこそチェンジである。</p> <p>キーワードとしては、廃棄物や水も含んだ広い意味の「循環」、「生物多様性」、府民が毎日接する大気や水などの「安心・安全」ということになるのではないかな。</p> <p>循環型社会の形成ということでは、「循環」というのがもう少し強調されてしかるべきではないかな。</p> <p>現計画は国の環境基本計画の4つのキーワードと1つだけが違うだけで、何かもうちょっと特色があったほうがよい。</p>	

1 参加・行動

部会委員意見	府民意見等
<p>(環境情報の発信) 環境データが集計されるのは遅れてくるので、速報みたいな形で府民に知らせることも大事。</p> <p>大阪独自の環境ブランディングを図り、大阪は環境に力を入れているということをしっかりと情報発信して行ってほしい。</p> <p>(環境教育) 85%の小学生が府内の焼却工場に見学に来ている。その様な場でもう少しよく伝えていくのが非常に重要。</p> <p>(住民主体) 住民「参加」というよりも、住民は「主体」にならないと効果的に進まないで、住民主体に取り組んでいく視点で計画はつくるべき。専門家や、行政は指導するだけではなくて、住民が主体となってやれるための支援をどうするのかを検討。</p> <p>(府民等の参加) 環境に関する取り組みは、府民生活や事業者の仕事に大きく関わる問題であるので、積極的に参加してもらえ計画作りが重要。</p>	<p>(行政からの環境に関する情報の発信) 情報源の統合・集中化とともに、窓口となる機関に有識者を育成して配置すればいいのでは。</p> <p>(中小企業の環境経営に向けた取り組み支援) 環境関連法令の動きをパッケージで合わせて、タイムリーに行政情報として提供する仕組みを整備。ワンストップの環境総合相談のようなコンサルティング機能が必要。</p> <p>環境への意識のボトムアップが、大阪の環境づくりの原動力になるのでは。自治会やPTA等の方面からのアプローチも有効では。</p>

<p>府民が行動すると行政が仕掛けるのと、両方の展開の仕方をうまく組み合わせないといけない。</p> <p>(環境配慮行動促進のための仕掛け) 府民の意識、知識、情報の格差は大きい。意識の低い人たちに、どう仕掛けていくのかという知恵が必要。大阪に住んでいるということは、緑豊かな自然にあふれたところよりも便利なところというのを選んで住んでいるのでそういう県民性を前提に、特効薬はないにしても、少しずつ何か仕掛けていけたらいい。</p> <p>個人としては環境配慮行動に取り組んでいても、外へ出て何かに参加する、協力し合って何かに取り組むという部分はまだまだ。ここをどうしていくのが効果的なのかなということを考えないといけない。</p> <p>大阪のおばちゃんの力に期待。金銭感覚やあめちゃんを配るような周りの人への思いやり。そういう人たちにもっと適切な情報を伝えて、自分の努力が経済的に反映されるような仕組みしたら頑張れるのではないかな。</p> <p>ポイントを与えるとかは大阪人らしい発送でいいが、基本的に環境は必要なんだというところに主眼を置かないといけない。</p> <p>太陽光発電補助制度を実施しているが、何か別のインセンティブが働くような制度設計を検討しているが、市民の自発的な促進行動をどうしたら実践に移せるかというふうなことを研究している。</p> <p>現代の若者は頭でわかっているけど、何も行動しないのが実情。環境問題に対して昔の現実を知っている人が、どの程度我慢して、実際のどの辺まではすべきやろうというような目標値を出し、10年ぐらい先に達成できる、すぐ取り組める具体的な行動を何か決めるべき。予算がなくても、仕組みと、行動したら得になるような実行できるものを何か考えてもらいたい。</p> <p>(環境文化の創造) 太陽光発電の普及啓発や市民の自発的な活動による環境意識の向上、緑や水辺の保全、創造によるヒートアイランド対策など環境文化の創造を図る。</p> <p>大阪は、滋賀や京都府に比べると、市民レベルの環境への意識が少ない。大阪の活動団体には、自然環境保護などの団体は存在しているが、水辺で遊ぶというようなテーマが多く、環境全般についての市民意識はなかなか上がっていない。</p> <p>(消費者目線での転換の提案) 消費者庁ができたのは、産業構造の転換ということで、産業優先から消費者目線への転換をという形での新しい庁ができるので、暮らしそのものも、いろんな意味で目線を変えていかなければならない。当たり前の暮らしをまず見直し、変えていくような提案をしていく必要がある。</p> <p>公共機関で行くのがエコツアー。今の高速道路の1,000円というのは一体何だろうか。便利さとかその他諸々と環境との折り合いをどうつけるかというようなことを消費者目線かどうか生活者目線で、大阪は環境も考えた生活者がたくさんいるということで、何か提案ができればいい。</p>	<p>(規制とインセンティブのバランス) 規制一辺倒の政策ではなく、環境負荷軽減に努力したものが報われる政策が必要。規制とインセンティブのバランスが重要。</p> <p>(一般家庭の取り組み促進) 補助金・助成金の対象製品の増加、申請・交付の簡略化を進める。</p>
--	---

2 4つの基本方向

部会委員意見	府民意見等
<p>(1) 低炭素 低炭素化 (バックキャスト手法) 長期のスケジュールを描いておいて、短期の目標を設定していく。2050年あたりを見ながら、大阪の産業構造だとか都市構造をどういうふうに変えていくのか考えながら、10年先とか20年先の短期目標を設定していく形がある。</p> <p>(領域横断的検討) 温暖化対策の場合については特に、従来の環境施策の延長線上の考え方を抜け出して、産業のあり方、交通のあり方など領域横断的な視野が必要になってくる。</p> <p>(低炭素社会実現の決意) 低炭素社会を大阪でどう実現するのが可能なのかというよりは可能にしていくんだという決意を持った中身にしてほしい</p>	

(都市構造改革)

自動車中心の交通体系を公共交通中心の交通体系に転換して都市の構造の改革(モビリティ・イノベーション)を図り、低炭素に向けていく。

(環境モデル都市)

環境モデル都市行動計画で堺市の地域特性を發揮して、低炭素に向けた取り組みを展開し、快適な暮らしと町のにぎわいが共存するクールシティ・堺を目指した市民を巻き込んだ形での全体としての行動を掲げている。

(エネルギー構造改革)

新エネ、省エネの技術の導入など、エネルギー資源を大量消費する今の産業構造を転換していく。

(府のイニシアティブ)

国は、産業界の本格的な排出量取引への移行などの課題があるが、大阪府の役割としては、業務、運輸や家庭など都市構造のあり方の部分でどういうふうにイニシアチブをとってやっていくのか、そこにあたりやすく注力をしてはどうか。

(産業、業務部門の排出削減)

産業と業務に関しても、計画書制度で取ったデータを分析して、大阪における産業の排出から業務の排出動向を見て、どこにどういう手当てをしていくことがいいのか。工場や業務の現場を回りながら、府のほうからいろいろアドバイスや改善していくことも可能なのではないかと。

(経済的手法)

例えば東京都は排出量取引とか、神奈川県は環境税など検討しているが、大阪府も、私としては、大阪の将来の都市戦略と合致する形で、何か特徴的なプロジェクトなり政策手段なり、検討いただきたい。

これからは、インセンティブを与えるなり、経済メカニズムを導入するなり、そういうメカニズムを是非取り組んでいかないとだめ。戦略的にいろいろ考えて、負荷の見える化というようなことも含めて、そういう方向性だけは、是非今回の計画の中で取り組んでいただければいい。

(技術の国際協力)

関西の低炭素社会に向けた優位性を活かし、アジアの地域に対し、技術事例の紹介等いろいろな観点から環境問題の解決に貢献できるよう、検討いただきたい。

ヒートアイランド

大阪は主要都市の中でも熱帯夜や真夏日が多く、ヒートアイランド対策が必要。是非大阪としては、ヒートアイランド対策の先頭を歩いていくべき。

(行動目標へのブレークダウン)

ヒートアイランド対策推進計画では熱帯夜日数を3割減らすという目的はあるが、具体的に熱負荷をどれだけ下げたいのか行動目標がない。地球の温暖化だと気温は何度ぐらいという全体目標があって、そのためには、日本、大阪でどれだけ、個人の家はどんなことをしたらいいか、活動目標のレベルにブレークダウンした数値を整合性を持ってつって、それをチェックできるようにすることが大事。

大気の中に物理汚染であるヒートアイランドを入れておくべきのような感じがする。ただし、地球温暖化の枠組みに入れておくと割に対策が進むという感覚もある。

(2) 循環

廃棄物

(フェニックス)

近畿2府4県は、フェニックスを持っており一心同体。今最終的には大阪湾しかないかなというようなところで、全体の中を見通した上で大阪府がどうするか連携しながら計画をつくっていく必要がある。

(脱自動車の街づくり)

温暖化・ヒートアイランド対策の中心施策に、「脱自動車・おおさか」を目指す街づくりを敢行すること。市電、歩行者優先、自転車優先の街づくりこそ大阪再活性のカギ。この考えに基づき、都市の高速自動車道路の建設を削減すること。

(新技術等導入等の提案)

自動車動力源をガソリンから再生可能な電力へ転換すべき。スマートグリッドシステムを導入すべき。

(規制緩和によるエネルギートップ化)

産業と環境が共生する先進的な地域づくりを目指し、省エネ設備の導入面積の緑地面積率への参入を認める等の規制緩和に他地域に先んじて取り組み、大阪湾岸地域のエネルギートップ化を図る。

大阪府を低炭素化のモデル都市とし、また世界に誇る環境先進地域として飛躍させるため、自然エネルギー公園構想の検討をお願いしたい。

(市町村の温暖化対策強化の支援)

温暖化防止対策を推進するには、市町村の役割が重要。府が、府域自治体の温暖化防止対策を包括的に調査し、財政的・人的援助啓発を行うこと。

エネルギー転換分と産業界が、日本全体のCO2排出のうち8割を占めており、その総量を減らすという要求が必要。

(自治体間の排出量取引)

自治体間の排出量取引的な提携を実行に移してほしい。(新宿区と恵那市が森林伐採でやっている。)

(市民共同発電所)

市民共同発電所で発電した電力を、グリーン証書を活用して買い取るような制度を創設してほしい。

(府民の取り組みやすさ)

廃棄物リサイクル分野への府民の関心は非常に高く、また、その対策に府民全員が直に取り組める分野である。取り組みの効果として、廃棄物の減量化という直接的なものだけではなく、「頑張れば成果がある」ことを府民が体験することは、その他の分野の環境負荷の低減に向けた取り組みの入口となることが十分期待できる。

(廃棄物の処分の流れ)

廃棄物をどう流して、最終どう処分しているか、ということを各行政が市民にわかりやすく説明すべき。

(経済的手法によるごみ減量化)

大阪人は“お金”に敏感なので、「ごみを減らしたらお得やで」ということを訴えることは有効であろう。そのための方策も検討する価値があるのでは(現在該当するのは「ごみの有料化」くらいか)。

(3) 健康・魅力

水質・水環境

(水質)

下水道は整備が進んでいるが難分解性の有機物が大阪湾入り、自浄作用で減るものはほとんどない。海域の達成率が今後もそんなによくなるとは思えないが、河川は淀川などは充分泳げるきれいさ。

(河川の生物生息環境)

河川の水質対策はそこそこ進んでいるので、簡単な向上は見込めなくなっている。あとは生物が帰ってくるということを頑張ればよいのではないか。

大気

経済が活性化することに伴う大気汚染をどう抑えていくかというところは、人口の多い、産業の多い都市の大きな課題である。

(廃棄物処理施設)

プラスチックのリサイクル工場の操業は一旦ストップし、周辺影響を調査すること。そのような施設の設置にあたり、建築基準法第51条ただし書き条項の実施要綱をつくって、廃掃法では抑えきれない問題について対応できるような体制をつくってほしい。

(廃棄物の適正処理)

廃棄物の適正処理については、化学物質管理に関して、事業者の自主管理的な形で環境負荷を少なくするという観点で計画をつくってほしい。

(大川の水質浄化)

大川の汚染の元凶である第二寝屋川を丸ごと浄化装置化すること。

(下水処理)

無汚泥の下水処理技術とリン回収技術の総合化をすべき。

下水道のあり方を再考すべき。微生物の力を借りて、汚水や雑排水を土に還す努力が必要。

(水循環)

道路や広場などアスファルトやコンクリートで覆われているものを浸透性のある素材に変え、雨水を大地に戻して地球の循環を取り戻してほしい。

(公害は終わっていない)

公害は「終わった」どころか、引き続き深刻な問題として継続している。

(公害患者の救済等)

大気汚染による公害健康被害者の医療費自己負担分を全年齢にわたって救済する制度を早期に確立すること。

公害患者をはじめとする慢性疾患患者、あるいはハンディキャップを持った人たちが安心して働き続けられる社会づくりが必要。

(NO2 環境基準)

NO2 の環境基準については、最低でも、府域全ての測定点で 0 . 0 4 p p m を目標値とし達成すること。

(PM2.5)

PM2.5 に関しては、せめてアメリカ並みの環境基準を早期に設定し、規制を始めることが大切ではないか。

(流入車規制)

府の流入車規制は、近隣府県との連携が図られれば、より効果が高まるのではないか。

(規制の実施体制)

公害・環境に関する規制行政を実施するには、しっかりした職員が直接に規制をすることが必要。

有害化学物質

(4) 生物多様性

生物多様性

各地域においても地域戦略というをつくらなければいけない、生物多様性を守るという視点における戦略をうたい込んでほしい。

(生物生息環境)

河川の水質対策はそこそこ進んでいるので、簡単な向上は見込めなくなっている。あとは生物が帰ってくるということを頑張ればよい。お金をかけてきれいにした段階で、もうちょっと安く、予算がなくてもできる何かを。

(里地里山)

大阪は原生的な自然を復帰しようとしても無理で、残っている優良な自然というのは、里地里山。農業が維持してきた里地里山というのに人手が入らないことによって日本の生物多様性が危機に陥っている。大阪における地域戦略の柱も里山ではないかと思っている。

(絶滅危惧種)

2000年に大阪府が出したレッドデータブックでも、その段階で100種ぐらい絶滅していて、それからもどんどん続いている。もう1回、レッドデータブックを作って、10年ぐらいたった段階でどうなっているのかというのもチェックしてほしい。

(外来種問題)

総合計画の中の生物多様性の柱の中には、外来種対策というのも是非とも強く打ち出してほしい。

(湿地)

大阪の中でとみにひどくなっていると思われるのが湿地。ため池とか農業が守ってきたいろんな湿地や湧水湿地、こういうものが急速に傷んでいるという感じがしまして、是非ともこの辺の視点も入れていただきたい。

(多様性保全のまちづくり)

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会では、外来種の問題や多様性保全について、自分達にできることをそんなことをまちづくりの中でどうやって取り組んでいくかを様々な所で実際行われ、見てきている。大阪は全然できてないと言われるが、それを支援することによって、環境を主体としたまちづくりの実現が促進できるような施策を盛り込めたらと思います。

みどり

(負の遺産の処理)

地域から声をあげて、PCB汚染物の処理を進めていくべき。ダイオキシンの焼却灰等の処理については、府の責任が非常に大きいのではないかと。

(化学物質に係る自主管理の改善)

事業者の有害化学物質管理体制(PDCAサイクル)を、府が把握する仕組みや制度を作ってほしい。

中小企業者が自主管理を円滑に行うための支援策を具体的に明記すべき。

(知見・情報の充実と環境リスクの管理)

環境リスクの低減のために、リスクコミュニケーションを促進すべき。

(アスベスト)

アスベストの泉南市の患者の救済に取り組むべき。

府がアスベスト対策の先進地として研究機関をつくり、アジアの各地で被害がでないようにしてほしい。

(公共保有地の緑地としての活用)

みどりの空間は「都市の肺」である。屋上緑化や壁面緑化はアメニティー要素であり、本質的緑化ではない。公共保有地を緑地として活用すること。

(まちづくり)

風の流れをもっと意識的に取り入れ、緑を増やした街づくりが望まれる。

<p>農林水産業</p> <p>(農林水産業の支援) 都市の中でまだ残っている水田や畑をいかに仕事として成立できることを考える必要があると思う。ちゃんと食べていける、やっていることに意義を感じるというような環境をつくるのが大事で、田や畑が他の用途に変わらないためにも、ちゃんと仕事として成立できるように支援するという施策が要るんじゃないか。</p> <p>漁協も、高齢化で漁業者がいなくなっているが、府下に400人も若手の漁業者がいて食べていけなくなってきている。彼らが自主的に食べていけるように支援できるのは重要で、例えば直接漁師が魚を売りに行くと言うのであれば、そこをきちんとつなげることは、行政が横と連携がとれていたらバックアップができる。</p>	<p>自然環境を取り戻すために、農業の活性化を図るべき。林業が成り立っていけるように支援することで、山を守っていくべき。できる限り無農薬の近場の農家が育てた食材を調達するなど、学校給食の見直しが必要。</p>
--	--

3 共通的事項

部会委員意見	府民意見等
<p>(広域連携) 大阪府の環境総合計画ではあるが、近畿一円、関西の中で大阪府がこういうポジションにあって、関西全体の中でどう動いているのかということが見えて、その中で大阪府はどういうことをするのかということがわかるようなことが必要。</p> <p>(府市連携) 府と市の連携について当然いろいろな施策の中大阪府と協力施策を進めているが、連携をこれまで以上に進めたい。</p> <p>(環境と経済の両立・環境関連産業の振興) 「環境と成長の連鎖(スパイラル)を基軸に世界をリードする環境先進地域・関西」を形成していくべき。</p> <p>経済と環境や雇用の両立、好循環を将来的にビジョンとして打ち出していくべき。</p> <p>世界に貢献できるような環境産業が関西で実現していることを認識し、よりグローバルな活動を検討すべき。</p>	<p>広域連携、自治体間の協調の視点を盛り込んでほしい。</p> <p>環境問題に大きな貢献が期待できる太陽電池、電気自動車等の新エネルギー分野について、独自の産業振興施策を打ち出す発想が重要。</p> <p>太陽光発電や省エネ家電の世界的な供給基地、あるいは世界に日本の環境技術を伝えていく教育基地として重要な役割をはたしていくというメッセージを発信すべき。</p>

計画の効果的な推進

部会委員意見	府民意見等
<p>(厳格な評価) 達成目標はあるが行動目標はこれまで書かれていない。現行の基本計画も4つの基本方向別に26項目の分野で実施しているが、何か話題があるものについては飛びつくが、全体として総合的に推進されているのが。目標設定もかなりアバウトな点があるので、数値目標なんかはあんまりこれまでやってない。PDCAサイクルに基づくもっと厳格な評価を自らやる必要がある。</p> <p>(成果指標) 府民活動の実績について参加の人数や箇所も必要だが、成果指標を精査して、ほんとうに環境のための目的に沿ったものか再度点検する必要がある。数値に追われて、ほんとうに達成されているのかわからなくなるので、指標の適正な設定の検討というの也需要。</p> <p>大阪府の多くの自治体が財政難。府民の税金がこんなふうに大事に計画に使われているのが見えるように示していくことが必要。</p> <p>府民に対して参加しろと言うのであれば、府民がチェックする仕組みを入れたほうがよい。</p> <p>専門的知見のある環境NGOがもも育ってきているのであれば、そういう団体を招いて、評価・意見聴取するというようなプロセスを入れてみる。</p> <p>データを見せられたり、科学的知見を言われたりして、その判断というのは府民にとって難しい部分もある。そこを理解するという部分は、府政の信頼とセットでなければ、そこへの参加というのが何か批判的な目でしか見られないような部分もある。</p>	<p>(計画のマニフェスト化) 総論的な環境総合計画は必要ない。具体的な実践を基礎として予算と経営が一体となったマニフェストが求められる。そうすれば、予算と決算のとき年2回は見られることになる。</p>